

## 米国軍隊の考察 (階級・組織等)

担当 金塚

### アメリカ合衆国の軍隊の組織・階級について

私は、久里浜のペリー記念碑から興味を持ち調べたものです

ペリー記念碑は明治34年(1901)に建てられましたが、これは1898年に退役した、ペリー艦隊のミシシッピ号に候補生で乗組んだピアズリー元少将、が、退役記念として、夫婦で彼が初めて経験した日本開国の現場として久里浜に来たが、何も記念するものがなかったことを、「日米友好協会」の歓迎式の席上でぼやきを言ったところ、主催者(日米友好協会)が重く受け取り、急遽記念碑を建設することとなり、皇室の下賜金もあって(1901年)に完成、盛大に完成式を行ったと伝えられています。

私は、少将一米国の高官、との発言は大げさな、と調べてみました。

調べてみると、当時の米国は、あまり軍人が偉くなると、政治家が取って代わられると心配し、大将、中將、元帥への昇進は規制したとのことです。ピアズリーは米国に帰国後、南北戦争等を無事乗り切り、米軍の最高階級とされる、少将で退官しました。

また、彼が来日した1898年は、年表でも記載の通り、日清戦争に勝利し、今度はロシアとの戦争が必至と思われた時でした。

実際、記念碑が完成して、すぐの1902年には、日露戦争が始まり、米国のルーズベルト大統領の斡旋で戦争が終了しています。

前置きが長くなりましたが、私が感じたことを列記します

1、 西欧の軍隊の階級は、その人の職務がきまって、階級となることです。

1-1 例として 英語の単語 Captain を考えてみますと、いろいろな所で使用されます

陸軍：中隊長、大尉。海軍：艦長、大佐。空軍：機長、大尉。警察：警部。スポーツ団体：主将 等々

1-2 これが、東洋(日本)では、大宝律令では各国(相模国。武蔵国等)に500人以上の軍団を置き、軍団のトップは(大・中・小)殺を置き、数国をまとめる将軍・大将軍が、また、参謀役に佐、を、又、下級幹部として尉(ジョウ)、曹、伍が置かれています、これは西洋と同じですが。

1-3 西欧(英語)ではもっとはっきりと職分と階級が繋がります。(以下、陸軍を主体に検討します)

100人程度を基準として、中隊長、その部下に尉官(Lieutenant)、そして上には、少佐(Major)、連隊長(Coronel) 将軍(General)が位置します。このポジションが階級と直接つながることから、戦闘中等で、あるポジションが欠員となると、通例はその部下等を引き上げて代行させますが。過去の日本軍の例では、中隊長が欠員となったときは再前任の中尉が職務を代行しますが、特に米国では、上司指名で上級者仕事をする時は Temporary Ranking(暫定階級)制度では前任者の階級章を付け、給与もその階級の給与を受取ることとなる制度です。

2 特に米国では、この制度が多用され。

第2次世界大戦が始まるまで、将官はFrag Officer と呼ばれて、2つ星まででした。

西欧の他の国は二つ星(少将)一つ星代将(Brigador General)とされ、第1世界大戦の時は、

師団長は三つ星、欧州派遣軍司令官は四つ星(大将)とされました。しかし、大戦が終わって凱旋して米国に上陸するとその場で二つ星に戻ったと伝えられます。

また、平時の陸海軍の最高指揮官、陸軍参謀総長、海軍作戦本部長等も、在職中は大将の階級章を付け、給与を受取りましたが、退職すると少将に降格したとのことです。

2-1 終戦後に日本に来たマッカーサー元帥は、陸軍最年少の総長となり、中將を飛び越えて大将となりましたが、退任して少将に戻り、フィリピン軍を創設するためフィリピンに赴任して最高司令官としてフィリピン軍の大將となり、第2次世界大戦が始まり、有名となった、セリフの I shall return を言ってフィリピンを離れ、対日連合軍の司令官となり、大将から元帥となったと伝えられます。

## 米国軍隊の考察 (階級・組織等)

担当 金塚

米国軍の年表

年代	米国の歴史	世界の歴史	日本の歴史	横須賀に関連するピックス	備考
1775	独立戦争で陸軍、海軍、海兵隊を編成 6/14陸軍、10/13海軍、11/10海兵隊が編成				第2次大陸会議で決定
1783	アメリカ独立				戦争終了後海軍解散
1783	独立戦争の勝利で、陸軍部隊他解散				小規模警備部隊が存続
1784	大陸会議の決定で、アメリカ陸軍を設立				
1792	民兵法にて州兵の位置付けが明文化				
1794	仏私掠船対策としてアメリカ海軍設立				フリゲート艦を建造
1798	議事戦争にて、海兵隊設立、4軍体制に				
1853				ペリー艦隊久里浜に来航	
1861	南北戦争勃発				
1865	南北戦争終結				
1894			日清戦争～1895		
1898	米西戦争				
1898				米国ヒアズリー退役少将来日	ペリー艦隊ミシシピの候補生で乗組
1904			日露戦争・開戦(2月)		
1905	6月米ルースヴェルト大統領日露に講和勧告		ポーツマス講和条約(9月)		
1914		第1次大戦			
1918		第1次大戦終了			11月休戦条約締結
1939	3月獨チェコ侵入	第2次大戦開始			
1941	太平洋戦争勃発				12月真珠湾攻撃
1945	5月獨無条件降伏				
	8月日本無条件降伏				
1947	空軍発足(U.S.Army Air Corp→U.S.A.A.P)				U.S.Army Air Corp→U.S.A.A.P)
1949	海軍は国防総省の一部となる				
2005	海兵隊が独立(ヒーター海兵隊大將が統合参謀本議長に就任) (ただし、軍政は海軍省の傘下に)				ヒーター海兵隊大將が統参本部長 に就任、(軍政は海軍省の傘下)

注記 1. 現在米国では、5軍、7武官組織 とも言われ、  
5軍は、国防総省管轄の 陸軍、海軍、空軍、海兵隊、+沿岸警備隊。  
7武官組織は5軍にアメリカ公衆衛生局士官部隊と合衆国海洋大気局士官部隊を加えたもの